昭和大学附属烏山病院だより
あおぞら

〔発行責任者〕病　院　長　岩波　明
〔編集責任者〕広報委員長　常岡　俊昭
〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11
〔電話〕03-3300-5231(代表)

第１６２号　［２０２１年１月３１日発］

新年のご挨拶に代えて

看護部次長　池田　勝之

新しい年を迎えてから、すでに時間が過ぎてしまいましたが、改めて、本年も、よろしく、お願い致します。

昨年は、世界中が、新型コロナウイルス感染症にふり回された１年でした。東京オリンピックを初めとする多くのイベントや地方の祭事などが、ことごとく中止となり、みなさんの中にも、ご家族をふくめ、お仕事や学業に、大きな影響を受けた方も多いのではないでしょうか。新年早々、東京をふくむ 10 都道府県に対して、2 回目の緊急事態宣言が発出されました。未だトンネルの出口が見えない状況の中で、しばらくは、この窮屈な生活が続くかと思われますが、みなさまにおかれましては、くれぐれもご自愛下さいますよう。

都内の、いくつかの精神科病院においても、すでに大規模なクラスターが発生していますが、当院では、患者さま、ご家族のご協力の甲斐もあり、幸いにも、ここまで院内での集団感染を抑えることができています。患者さまにとっては、ただでさえ不自由な入院生活に加え、抗原・PCR 検査への協力や、外出泊、面会の一部制限、作業療法やレクリエーション等も、対人接触を最小限にするために本来とはちがう方法で実施させて頂くなど、多くのご不便をおかけしております。改めて、お詫びと感謝をお伝えできればと思います。

ただ、悪いことばかりでもなく、ケガの功名とでもいうべきか、感染状況を踏まえ、WEB を活用した家族教室の開催を始めたところ、ご参加頂きましたご家族の方々からはご好評を頂きました。こうした新たな取り組みにも、併せて挑戦していきたいと考えております。

この新型コロナウイルスは、非常に感染力が高く、高齢者にとっては、急激な経過を辿って重症化しやすいということが伝えられています。今後とも、入院、外来を問わず、患者さまの安全を第一に考え、徹底して感染対策に取り組んで参ります。引き続き、ご理解と、ご協力をお願い致します。

オンライン家族教室が
看護師の職能団体の
機関誌で紹介されました

2 オンライン家族教室で、新たな参加が広がる！

当院では、昨年5月から家族教室をオンライン開催に切り替えました。毎月1回、平日夜に開催しています。医師、看護師、精神保健福祉士など多職種の有志スタッフで運営。外来患者さんや入院患者さん数名も参加して、当事者の立場から家族にアドバイスをしています。ご家族はその回によって違いますが、約6組が参加しています。

個人情報の流出を防ぐため、スクリーンショット（画面を撮影した画像）や録音などは禁止し、ご家族と患者さんの顔が映らないようにビデオ機能をオフにし、ニックネームによる参加で匿名性を保障しています。申し込み時も名前は記入せず、空メールを送信してもらい、Zoom*に参加できるURLをメールで送るだけなので、運営側もだれが参加しているのかわからない仕組みです。

毎回、テーマに沿った講義のあとに意見交換を行っています。「言いっぱなし」「聞きっぱなし」を原則にし、話したくないときは無理に話さなくていいと伝え、安心して話ができる場を保障しています。参加者からは「匿名だから気軽に話せる」という声もよく聞かれます。

アンケートを行ったところ、オンライン開催になってから参加している方が大半で、9割の方がWeb開催を希望していました。その一方で、自由記載では「会場で開催する教室にも参加してみたい」という声も多く、Web開催が対面の家族教室への関心を広げていると感じています。最近は訪問看護師やケアマネジャーも参加し、利用者さんにも参加を促しています。地域で孤立しているご家族、当事者が多いので、さらに広く参加を呼びかけていきたいと思います。今後は、対面とオンラインを組み合わせ、場のダイナミズムを活かした家族教室をつくっていくつもりです。

■希望する開催方法
4%　7%　26%　63%
■オンライン・平日
■オンライン・土曜
■訪問時間・平日
■訪問時間・土曜

30 年間お世話になりました

精神保健福祉士　長谷川　千種

当方が入職した平成３年４月は、世に知られた「烏山病院闘争」が終結し、疲弊した当院が新たな改革へ向けて充電している時期だったでしょうか。烏山病院闘争は、「鳥は空に、魚は水に、人は社会に」をスローガンに、数名の医師が中心となって病院組織の枠組みや手順を超え、強硬に入院患者の開放へ踏み切り、その後、裁判闘争へ舞台を移し、終結まで 10 年の歳月を費やした一連の出来事です。当方入職時には、まだ烏山病院闘争を体験した職員が残っており、あるベテラン看護師は、「この闘争では様々な意見がある。その中で精神病院が学んだことの一つは、鳥は空で飛べるように、魚は水で泳げるように、人は社会で暮らせるようにすることだった」と語っていたことを想い出します。

入職後は、まだ牧歌的雰囲気が残っており、納涼会や花見、文化祭（一祭合祭）など、季節ごとのイベントを中庭で開き、浴衣や半被姿の職員が模擬店を出して患者さんに振る舞っていました。盆踊りなどは地域の方にも開放していたかと思います。

当時は 30 年以上の大ベテラン PSW が３名おり、「PSW として一人前になるには 10 年かかる。まずは患者さんから学べ」とのことで研修期間は１年。すべての病棟、デイケアなどを３か月ずつ回り、仕事は「患者と遊んでいろ」でした。今では考えられない贅沢な研修です。毎日病棟へ入り、ラジオ体操を行い畳の病室で入院患者さんと共に過ごす。やっと患者さんや病棟に慣れたと思ったら、次の病棟へ移る繰り返しでした。幻覚妄想に驚き、距離の取り方もわからず、ただひたすら話しを聞かせてもらいました。職員は知らない、患者さん達だけのネットワークにも入れてもらいました。この１年の学びが、今日まで私のベースとなっています。症状の辛さや躁転したときの爽快さ、不可思議な世界観、中には一方的とも思える解釈や主張を聞くこともありました。共に過ごすなかで、家族や周囲を守るために様々なことをあきらめる患者さん、他者へのやさしさや厳しさ、変化を恐れる姿、強制入院や薬への不満・恐れなどを知り、職員が圧倒的に強い立場にいること、医療者や支援者との信頼関係の重要さ、社会資源の乏しさなど、多くのことを学びました。

時は流れ、病棟を建てかえ、土地が半分になり、急性期化に舵を切った烏山病院。鉄格子の精神病院から、近代的建物と短期入院を目指す精神科病院への時代へ突き進んでいきます。これまでより早く地域生活へ移行していく流れが始まりました。しかし、その一方では、当院から療養目的で転院する患者さんも多く、その一部は地域生活へ戻るための治療や支援が時間切れとなり、転院によって社会的入院を維持させてしまう側面をはらんでいたのではないでしょうか。当院からは見えなくなるが、社会的入院自体は解決されていない。社会問題でもある社会的入院の一旦は、当院も担っていることを忘れてはならないと思います。

当院が初期から協力していた退院促進モデル事業は、現在、地域移行支援事業として障害者総合支援法に組み込まれています。一人でも多くの方が、病状安定後できるだけ早く地域へ戻れるよう、医療・支援体制をより充実させていくことを願ってやみません。

認知症高齢者の方についても、本人の希望と家族の負担を考慮しながら、より行動制限の少ない生活環境を見出していくことが望まれます。

PSW として、当方はまだまだ力不足が否めず、これからも学び続ける必要があります。一方では、これまで培ってきたものを病院以外のところで役立てないかとも考えています。たどり着いた結論は、個人事務所を開設して、ホームソーシャルワークやファミリーソーシャルワーク、成年後見などを始めてみようということでした。今年の夏頃に開業しようと考えています。全額私費になりますが、どうぞご利用ください。

烏山病院は、精神科における地域の基幹病院として、今後も重要な役割を担っていきます。改革のエネルギーもあり、立ち止まって沈むことはないでしょう。温故知新も併せ持ち、メリハリの効いた魅力ある病院であり続けることを願っています。

30 年の長きに渡り、お世話になりました。只々、すべての人や組織に感謝です。
ありがとうございました。

永年勤続 35 年表彰者

栄養科　調理師　西村　裕次

この度はこのように永年勤続の表彰を賜りましたことは、身に余る光栄でございます。厚く御礼申し上げます。

烏山病院での 35 年を振り返ってみますと、まだ木造の建物（外来・管理課）があり、昭和初期にタイムスリップしたように感じたことを覚えています。また、中庭も木々が茂り近隣にある保育園の園児が遊びに来たり、患者さんが昼寝をしたりと世田谷とは思えないほどのどかな風景が広がっていました。

入職した頃の厨房内は冷暖房器具が一切なく、夏はとても暑く、冬は驚くほど寒くなり環境的にはとても厳しかったです。中でも雪が降ると、配膳前に旧厨房(現在の高層マンション付近)から旧 C 棟へ続く坂や現在の中央棟まで雪かきを行い配膳車が通れるようにしなければならず、とても苦労したことを思い出します。

35 年という年月を勤務してこられたのも、職場の先輩や同僚、他部署スタッフの皆様のご指導とご協力のお蔭だと感謝しております。この度の永年勤続の表彰を受けましたことを胸に、これからも職場での仕事に励み、皆様にご満足していただけるような食事を提供できるよう日々努力をしていきたいと思っております。

今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

C3 病棟　看護師　沢田　祐子

昭和大学より 2020 年度 35 年勤続のお祝いを頂けたことに感謝しております。田舎者の私が看護学雑誌片手に応募し、採用試験を受けた時のことを鮮明に覚えています。就職して 3 年働いてはこれから先やっていけるかと思い立ち止まり、5 年目を想像するなんてできずにいた頃が懐かしいです。

年々役割も増え、無我夢中で仕事する中で、部署以外の方々と関わり、がん看護を通して地域活動へと視野を広める機会を与えて頂きました。横浜市北部病院の立ち上げも経験させて頂き、良い経験となりました。悪戦苦闘している中、多くの諸先輩方や患者様から育てて頂き、今日があると思うと感慨深いです。精神科専門病院である烏山病院に異動して 9 年目となり、面白いことに毎日学びがあります。多くの患者様やご家族様を関わりを通して、精神医療の重要性と奥深さを感じずにはいられません。残りの 1 年を烏山病院で務めさせて頂けることに感謝し、患者様を中心にチーム医療を推進するために何ができるのか、日々精進しながら務めさせていただきます。益々の昭和大学及び昭和大学附属烏山病院の繁栄を祈願しております。

DC 活動　コミュニケーションズ

Y・K さん

現在、私はデイケア内で毎週、金曜日に行われているプログラムに参加しております。

コミュニケーションズの内容としては、卓球・バドミントン、音楽鑑賞があり、私自身はスポーツが好きなので、卓球・バドミントンに参加をしています。

メンバー同士で卓球・バドミントンどちらをやるか好みが分かれるので、お互いを尊重しあい決定しております。
また、卓球・バドミントンを行うペアも話し合って決定しています。

参加してみての感想は、私的な意見の押し付け合いにならないように気を付けて参加をしており、さらにプライベートは運動不足なので非常に助かっています。

総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・８時３０分～１７時
　　土　曜　日　　８時３０分～１３時
電話：月曜日～金曜日０３－３３００－５３２９
　　土　曜　日　０３－３３００－５２３１
◎初診受付：月曜日～土曜日・８時３０分～１１時

≪12 月 ≫	入 院(前 月)	外 来(前 月)
◆延 患 者 数	8,417 (7,570)	5,884 (5,674)
◇一日平均患者数	271.5 (252.3)	245.7 (246.7)
◆診 療 実 日 数	31 (30)	24 (23)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。

【 編 集 後 記 】

皆さま、明けましておめでとうございます。2020 年から続く新型コロナウイルス感染症の拡大でいつもと違った形で年末年始を迎えた方も多かったかと思います。私は年末年始の休みを利用して、買っても積んだまま読めていなかった「積ん読」を消化することができました。

まだまだ新型コロナウイルスの終息が見えませんが、今年は昨年延期となってしまったオリンピックも開催される予定ですし、活気溢れる 1 年になるといいなと思っております。

皆様はどのような 1 年にしたいでしょうか。2021 年が皆様にとって、充実した、希望に満ちた 1 年になることをお祈り申し上げます。

（広報委員　川島）